

## 特別研究期間研究成果報告書

1. 研究課題：近現代における都市社会史の比較研究
2. 研究期間：2007年4月1日～2008年3月31日
3. 研究場所（国都市・機関名）：イギリス／ロンドン、他

### 4. 研究成果概要（2,000字以内）：

特別研究期間当初の3ヵ月間はイギリスに足場を置いて、これまでの日本に関する自らの研究をふまえ、近現代イギリス（ロンドン）における都市社会の状況に関する調査・研究をすすめた。その際の第一のポイントは、ロンドンの警察・監獄と日本とのかかわりである。警察史研究は年来のテーマであるが、1879～80年の川路利良一行の第二次西洋警察調査の際、川路は途中で死去したものの、そのあとを継続した佐和正らが1880年5月から6月末まで、イギリスで警察・監獄等を視察している。こうした事情をふまえ、今回は犯罪・刑罰・法律関係の文献を調査しつつ、それぞれの所在確認を行った。近代イギリス警察はフィールディング兄弟による警察改革の結果、誕生したが、その誕生地であるボウ・ストリートの「POLICE」、ロバート・ピールによる首都警察の創設によって誕生したスコットランド・ヤード、ロンドン最大の監獄の一つであるニュー・ゲート監獄の廃止後、同地に建てられた中央刑事裁判所、1842年に設置されたペントンビル監獄、ベンサムのパノプティコン（一望監視装置）構想を組み込んだ監獄として重要なミルバンク監獄の跡地（現在は美術館テート・ブリテン）などがそれである。監獄内部の状況については、クリンク博物館（監獄博物館）において、その展示を見学・調査した。なお、監獄とあわせて、刑罰・処刑（とくに公開処刑場タイバーン等）に関する文献も調査した。

第二は、巨大都市と墓地の関係についてである。19世紀初め、ロンドンでは毎年5万人以上が埋葬され、昔からの教会墓地は満杯になってしまったという。その上、コレラ流行により新しい墓地の必要性が決定的になり、墓地が首都の周りに造成されていった。翻って近代の東京においても、基本的にこれと脈絡を通じる事態が生じていた（拙論「都市と火葬場—近代国家の埋葬管理」『へるめす』第48号、1994年）を参照）。そこで両者の異動を探るため、今回はCemetery 共同墓地やCrematorium 火葬場など、ロンドンにおける墓地の全体的な配置について調査するとともに、実際にバンヒル・フィールズ、ケンサル・グリーン、ハイゲート、ブロンプトンなどの墓地を調査し、また、ロンドンで最初につくられたゴルダス・グリーン火葬場を見学した。

第三は、都市化と貧困の問題を住宅に焦点をあわせて究明することである。19世紀ロンドンの発展によって1700年に67万人だった人口は、1820年代には130万人となった。家屋建築がすすみ、ロンドンは膨張して、西部地域にはテラス付の家や立派なマンションが建造されていった。今回は、その様をベイズウォーターの三日月広場やサウス・ケンジントンのハウスなどに実見した。他方、東部のホワイト・チャペルやベスナル・グリーンなど、イースト・エンドの一角にはスラムが形成され、貧困が蓄積していった。1890年代にはスラム一掃計画が進行したが、今回、その様を1900年に出現したバウンダリ・ストリー

ト団地に足を運んで確認した。また、膨大な数の移入民の居住地であるイースト・エンドにおいて、他民族都市ロンドンの現況をつぶさにした。

第四は、戦争の記憶を首都において確認することである。ロンドン出発前に校正を終えていた拙著『近現代史考究の座標』（校倉書房、2007年8月刊）の中心的な論点のひとつが戦争認識の問題にあったからである。これについては、帝国戦争博物館、国立陸軍博物館、チェルシー王立病院（退役軍人の隠居所）資料館、戦時内閣執務室博物館&チャーチル博物館、Britain at Warなどを調査・見学するとともに、ロンドン市内の随所に建造された多数の戦争に関係したモニュメントを調査・実見した。

以上のロンドンにおける調査・研究をふまえ、この機会にヨーロッパの主要都市の歴史と現在に関しても可能な限り調査を進めたいと考え、別途、ベルリンおよびローマに赴いた。ドイツ帝国・イタリア王国の成立が、日本の明治維新と同時期であり、やがて第二次世界大戦において3国が枢軸国を形成したことから、3国・3都の比較・関係に強い関心をいただいたからである。とくにベルリンにおいては、ロンドンでの調査・研究の第三・第四のポイントとかかわって、都市化と貧困・住宅問題、および戦争の記憶の問題について認識と思考を深めた。さらに、帰国後は日本国内において、ロンドンのウェスト・エンド、イースト・エンドと、東京の「山の手」「下町」の類比を通じて比較・考証を展開するとの着想を得、かねて進めていた内務省・内務行政の調査・研究を、社会行政とくに東京の貧困問題に照準をあてて推進した。また、都市社会史の新展開を警察に機軸をすえて推進すべく、史料調査を集中的に進めた。